

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教育学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	古 別 府 ひ づ る
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 海外中等教育機関日本語アシスタントの存在意義に関する研究 —インターアクション能力を促進する人材育成に向けて—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教 授	渡 部	倫 子
審査委員 (Name of the Committee Member)	教 授	曾 余 田	浩 史
審査委員 (Name of the Committee Member)	教 授	永 田	良 太
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、海外中等教育機関の日本語アシスタント (Japanese Assistant: 以下, JA) が適切な評価を得ていないこと, JA と教師との線引きが明確でないこと, JA の役割や成長に関する実証的研究が無いこと等の課題を踏まえ, JA の存在意義を示すため, JA の役割と成長について検討することを目的とした。</p> <p>第1章では, 問題の所在と本研究の目的と課題を述べた。</p> <p>第2章では, 先行研究をレビューし, JA を「日本語母語話者で, 資格を持った教師の下で補助的な役割を果たす者」と定義した。</p> <p>第3章では, JA の外在的役割としての業務と内在的役割としての資質を抽出した。</p> <p>JA の業務は, 先行研究より, 日本語と日本文化学習のインフォーマントや生徒のインターアクション (Interactions: 以下, INTS) 相手としての教師の仕事の補助に集約された。</p> <p>JA の資質については, 語学アシスタント (Language Assistant: 以下, LA) の受入や送り出しの歴史を有する英語圏中等教育機関の日本語教師 212 名を対象に質問紙調査を行った。因子分析の結果, 「教師の専門性と英語力と規律」, 「日本語教授者の基本的態度」, 「明るい人間性」, 「勤勉さと役割認識」の 4 因子が抽出された。また, 教師の LA 経験有無と JA 受入希望有無との関係を検討した結果, 「教師の専門性と英語力と規律」(以下, 教師性) の因子に有意差が確認された。LA 経験と JA 受入希望がある教師は, JA に教師性を求めておらず, LA 経験があり JA 受入希望が無い教師は, JA に教師性を求めていることがわかった。これより, LA 経験と JA 受入希望がある教師以外は, 教師と JA の区別の認識が明確でないと推察された。</p> <p>第4章では, JA は, 教授能力習得ネットワーク下に相当期間置かれることから, JA 派遣を組み込むことで, 教師養成は learning から acquisition へ転換できることを論じた。</p> <p>第5章では, JA の日本語教師観について, 派遣前と派遣後に PAC 分析を行った結果, 「専門知識やわかりやすさ」から「教室運営力と明るい人間性」へと変化し, 認知的変容が明らかになった。</p> <p>第6章では, JA の英語力を軸に, 英語力不安から解放のプロセスと成長に関わる要因を検討し, JA の本質的役割を「日本語母語話者で, 資格を持った教師の下で補助的な役割を果たし, かつ, 個々の生徒と向き合い, 学習のキャッチアップをサポートする者」と再定義した。</p> <p>第7章では, 本研究結果より, 役割と成長は相互に作用しながら進展する関係にあり, JA の周囲の人達との INTS が役割と成長の相互作用の原動力であり, 生徒の INTS 能力は JA の INTS 能力にかかっていることを指摘した。</p> <p>第8章では, 本研究結果を反映させ, 学習者と JA の INTS 能力を培う JA 養成の教育内容を提示した。</p> <p>第9章では, 本研究結果を総合的に考察し, 問題と本研究の限界を述べた上で, JA の存在による学習者の INTS 能力向上を実証する調査研究を今後の課題とした。</p>			

本論文は、次の4点で高く評価できる。

1. 日本語教師でさえも教師と JA を区別して認識していないことを明らかにした。
2. JA の資質、本質的な役割 (学習のキャッチアップのサポート)、成長における内面的要素を明らかにした。
3. INTS 能力を学習者だけでなく JA にも求められる総括概念として位置づけ、社会文化的アプローチによる日本語教育研究の必要性を示した。
4. 研究成果を踏まえた JA 養成の教育内容を提案した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士 (教育学) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5年 5月 9日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)